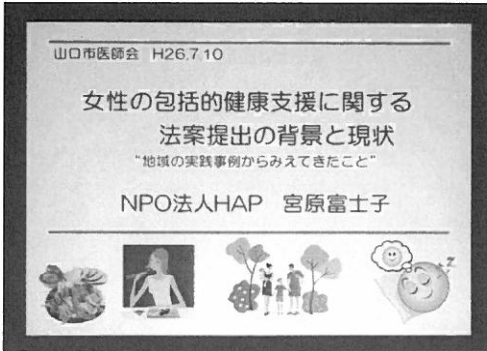


## 日本の底力～女性医師部会総会記念講演を聴いて

田村 博子



女性医師部会総会後、NPO法人HAP (Healthy Aging Projects for Women) 理事長・宮原富士子先生の「女性の包括的健康支援に関する法案提出の背景と現状～地域の実践事例からみえてきたこと～」と題するお話を聴きました。

今回の講演会はちょうど時期が山口市医師会館のこけら落としに重なることになったため、いつもより多くの人に来ていただきたいの思いで準備を進めました。当日は台風の直撃は避けられたものの天候不順の中、渡辺市長以下市役所の担当部署の方々、市薬剤師会からも岡村会長をはじめ会員の方々、そして吉野会長をはじめ男性医師会員も来てくださって、予定より多くの参加者があり、役員一同、胸をなでおりました。

講師の宮原富士子先生は浅草で薬局を営む薬剤師さんですが、「女性の健康力は日本の底力!!」と女性の健康出前講座を全国で展開したり(昨年1年間で104回!）、在宅医療、緩和ケア、がん哲学外来等々、幅広い活動で飛び回っておられます。私自身、山口性差医療研究会(代表世話人:松田昌子先生)と県医師会のスポーツ医研修でお話を聴いたことがありますが、とても歯切れがよく盛り沢山なお話で、何回聞いても楽しめます。

そんなわけで、今回のお話もその全部はともこの誌面にご報告できそうもありませんが、その一端だけでもお伝えしたいと思います。

今回の内容は、①女性の健康をめぐる日本の課題、②HAPとHAPの活動のご紹介、③HAP

が重点化しているコンテンツ、④更年期講座概要、⑤浅草地域でのとりくみ(在宅医療)、⑥各職種連携して……ということで、「はたして真をついた施策が展開されているのだろうか」という点から話が始まりました。実は「女性の健康力」というものは平成19年4月に策定された「新健康

健康フロンティア戦略」において柱の一つに位置付けられていますが、国民に浸透していません。また今年4月1日には自民党から「女性の健康の包括的支援の実現に向けて3つの提言」がなされましたが、女性の健康の包括的支援に関する法律(仮称)は頓挫し継続審議となっています。

女性の平均寿命(86.3歳)と健康寿命(73.62歳)は12、3年の乖離があることから、日本の健康施策としては、女性の健康寿命を延ばすのが一番です。介護になった原因の多くは骨粗鬆症による骨折・転倒とロコモだということを医療者でなく、一般の人が知ることが大事です。一人ひとりが転ばなければ医療費は節約できるのです。

骨粗鬆症学会が今年から骨粗鬆症マネージャーを育成します。日本では骨粗鬆症薬の売り上げは世界第2位ですが、現実には先進国の中で日本だけが唯一骨折患者が増えています。戦略としては、最大骨量になる16から20歳の女の子にもっと骨量を増やすよう運動や栄養の教育をする、40代からスクリーニングしてリスクの高い人には介入する、中高年にはロコモ体操を広げる等々考えられます。平成27年から要支援のサービスが介護保険から外されることを考えると、市町は要支援の対策を取らなくてはなりません。要介護にならないために、疾病重症化防止を医師と薬剤師がタグを組んでやっていくといいと思います。女性の身体は3変化。初潮前、月経期と閉経後で変わりますが、これか

らのキーワードはメノポーズ。女性が閉経を超えてどれだけ元気で生きられるかです。現在第2次ベビーブーマーが更年期に差し掛かってきました。時代のニーズにあった健康施策が必要です。

HAPでは女性のライフステージに応じたウィメンズヘルスケアに取り組んでいます。特に日本の在宅医療推進の動きの中で、在宅医療現場で働く女性たちへの健康情報提供はよい評価を得ることができ、大きなステップになりました。

今、重点化しているのは、①小学校高学年の女兒を持つ保護者のための思春期心構え講座、②20歳前後の女子への女子力アップ講座、③40代からの心とからだの健康づくり講座です。

浅草地域では患者、家族、医療者、介護者が顔の見える関係を作って、在宅医療、緩和医療、がん哲学外来、更年期講座として美しく立つロコモ講座「美立道場」などの取り組みを協働して行っています。医療の仕事も、機械やコンビニが取って代わることができるのではないかと、いう風潮もありますが、最後は人の力だと思います。自分の身体の変化を知って、自分で取り組む女の人を増やすことが健康施策に役立ちます。

と、こんな風に、今回は政策提言も盛り込んだ内容をわかりやすく、具体的に、お話しいただきました。お話を聴いていると、成人式にラ

ンズナイト（寝る時に下着に貼っておけば基礎体温が測れる温度計）を配る、40歳になった女性にはメタボ健診でなく乳がん検診、骨量測定、甲状腺機能検査を組み込んだウィメンズヘルス健診を行う、等々、できそうなことがたくさんありました。更年期講座と言わず、美立道場とネーミングするなどの工夫もされていて、とても感心します。過剰な介護の防止による自助共助公助の考え方が重要だということを面白おかしく語っておられたのもとても印象的でした。

なお、膨大なパワーポイント資料はすべて事務局にありますので、ご覧になりたい方はお申し出ください。

最後に野瀬橋子部会長が、行政や薬剤師会、医師会が手を組んで女性の健康を幅広い視点から支援していきたい、とお礼の挨拶をされて閉会となりました。

蛇足ですが、今回の講演会、台風8号が近づく中、講師が飛行機を新幹線に変更してでも来て下さるお気持ちがあることを確認したうえで、台風の進路を適格に見定めて、「やりましょう！」と決めて揺るがなかった野瀬部会長、「予定通り飛行機で来ましたよ」と平然と現れた宮原富士子先生……本当に日本の底力を感じさせられたことでした……それにしても皆さんお酒もめっぽうお強くて、終了後の情報交換会(?)では、皆で吸入剤の使用方法をロコモ体操風にしたりして大盛り上がりでした!?

